

2019年07月02日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【残念な大阪G20】

先週末に大阪G20が開催されました。

大阪G20では、特に、米中首脳会談が注目されていました。

私見ですが、事前の予想では、米中首脳会談でも、米中貿易摩擦問題は解決しないし、大きな進展も期待できない、と考えました。

ただし、せっかく米中の首脳が会談するのですから、何かしらの合意は発表されるのだろう、と考えました。

その合意は、本質的な解決策ではなく、米中首脳会談が実施されたことに対するパフォーマンスです。

米中それぞれの首脳は、それぞれの自国に対して、政治的なパフォーマンスを示す必要があるので、決定的な決裂は避けるだろう、と考えました。

そして、事前に予想した通りの合意内容だった、と考えます。

+++++

今回の米中首脳会談の合意は、全くたいした内容ではない、と考えます。

今回の米中首脳会談では、交渉が決裂した場合に、米国は、追加の制裁関税を予定していました。

しかし、米中は、貿易に関する交渉を再開することで合意し、米国の追加の制裁関税は回避されました。

ただし、大阪G20の開催前と比べて、何も変わっていません。

今後、これから、米中が、貿易に関する交渉を再開することが決まっただけで、何の進捗も無い状態が続いています。

「決定的な決裂」にならなくて良かった、という見方も出来ませんが、米中は、共に、もともと、「決定的な決裂」は望んでいない、と考えます。

だから、米中の貿易摩擦問題(貿易戦争)は、解決せずに、長期戦になる、と考えます。

別な言い方をすれば、
「米国は、手を緩めることなく、中国に強い要求をするだろう」
しかし、
「中国は、米国の思い通りには従わないだろう」
だから、
「交渉は延々と続くことになる」
と予想します。

+++++

蛇足ながら、今回の大阪G20そのものにしても、結論を予想するならば、大した成果は望めない、と考えました。

このところのG20の声明では、「保護主義に対抗する」という文言が削除されています。

米国が保護主義的な政策を採っているのだから、今回の大阪G20の声明でも、「保護主義に対抗する」という文言は、盛り込むことはできない、と考えました。

そして、取るに足りない合意を、大々的に美化し、自画自賛するのだろう、と予想しました。

事前の予想通りだった、と考えます。

各国の首脳が、それぞれに、自国に手前味噌なパフォーマンスを示しただけの大阪G20だった、と考えます。

本来ならば、「G20という会合」の存在意義が問われるべきなのに、マスコミも、それを指摘しない。

各国のマスコミも、それぞれの権力に迎合している、と痛感しています。

残念で、悲しい限りの大阪G20だった、と考えます。

+++++

(2019年07月02日東京時間13:50記述)